

# Peshawar-kai

# ペシャワール会報

ペシャワール会事務局  
〒810-0041 福岡市中央区大名  
1-10-25 上村第2ビル603号室  
TEL 092 (731) 2372  
FAX 092 (731) 2373

No.115

2013年4月3日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 [peshawar@kkh.biglobe.ne.jp](mailto:peshawar@kkh.biglobe.ne.jp)



表紙絵 パクシージ 喜捨/画・甲斐大策

マルワリード=カシコート連続堰、完成の目途

中村 哲

誇りと感謝の日々

グラムモハマド

空爆下の食糧配給も

モクタルカーン

ドクターサーブとの二五年

ラフマツカーン

現地活動に“感嘆の声”

小澤成一

●カラー特集 用水路建設工事の変遷 第2回 ガンベリ沙漠の開墾と試験農場

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

# マルワリードⅡカシコート連続堰<sup>せき</sup> 完成の目途

## — 推定六五万人が安心して暮らせる土地に

PMS（平和医療団・日本）総院長／ペシャワール会現地代表

中村 哲

### 三郡の安定灌漑

再び春がめぐり、柳の新緑が輝く季節となりました。皆さん、お元気でしょうか。

昨年一二月の会報で報告したように、今冬はこの一〇年で最大の山場を迎えました。「縁の大地計画」が重要な段階に差しかったのです。

ジャララバード北部の穀倉地帯、シェイワ・カマ・ベスード三郡の安定灌漑によって、一六、五〇〇ヘクタール（推定人口六五万人）が安心して暮らせる土地になる——夢のような話ですが、実現に向けて確実な歩を進めました。

最難関と見られたマルワリードⅡカシコート連続堰は、完成の目途が立ち、ひと夏を経てから最後の詰めの仕事が行われま

す。これによって、マルワリード用水路側三、五〇〇、カシコート側二、五〇〇、計六千ヘクタールが安定灌漑の恩恵に浴し、同時に悩まされ続けてきた洪水の恐怖からも解放されます。

しかし、皆の協力と天運がなければ、この仕事は成り立たなかったと、この一年をしみじみと振り返っています。クナル河は聞きしに勝る暴れ川で、水量が筑後川の数倍、大規模な流れです。

### 連続堰に精力を傾注

昨年二月に行政と住民を集めて工事宣言した直後、後悔の念が起きないではありませんでした。調査を進めれば進めるほど、容易な工事でないことを悟りました。主要河道が大きく村へ蛇行して進入、主幹水路



シギサイフォン開通の日（2013年2月2日）

となる土地が川底に沈み、灌漑だけでなく洪水対策をも同時に行わなければならなかったのです。

このため、ペシャワール会に頼んで緊急予算を組み、大掛かりな河道変更工事が一年前に行われました。昨秋に本格的な連続堰建設が始められ、同時に取水門Ⅱ主幹水路Ⅱ調節池と、一連の取水設備が間もなく



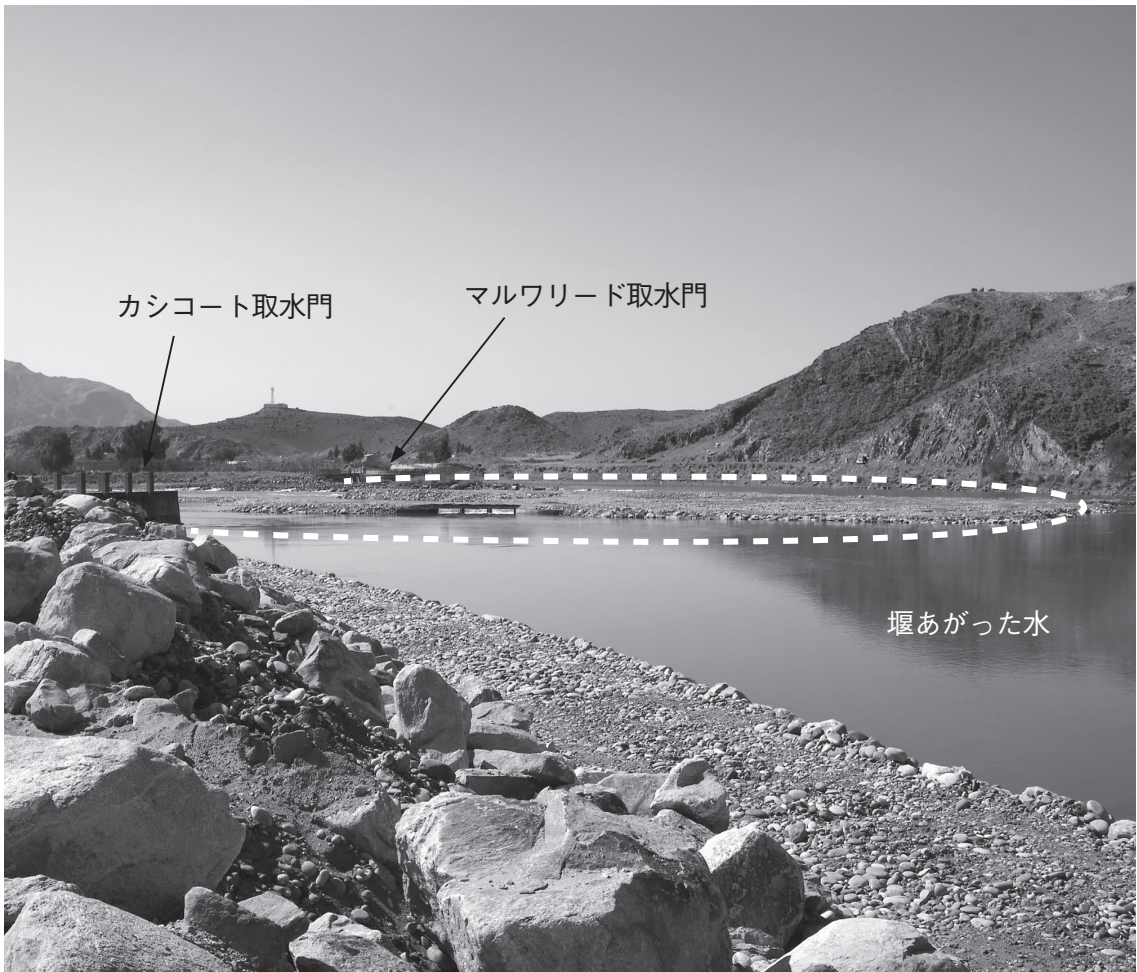


完成したカシコート取水門を用水路内から見る（2013年1月26日）



これまで手がけた中で最長のカシコート主幹水路。1,100mを既に仕上げた（2013年3月7日）





マルワリード=カシコート連続堰（点線部）。ひと夏を観察してから、10月に最終的な仕上げに入る（2013年2月17日）

完成いたします。

連続堰に最大の精力が費やされました。堰長五〇五m、石張り面積は約二万五千㎡（約七、五〇〇坪）、今回ばかりはモデルであった山田堰（福岡県朝倉市）の資料を丹念に読み、工法もそれを踏襲しました。

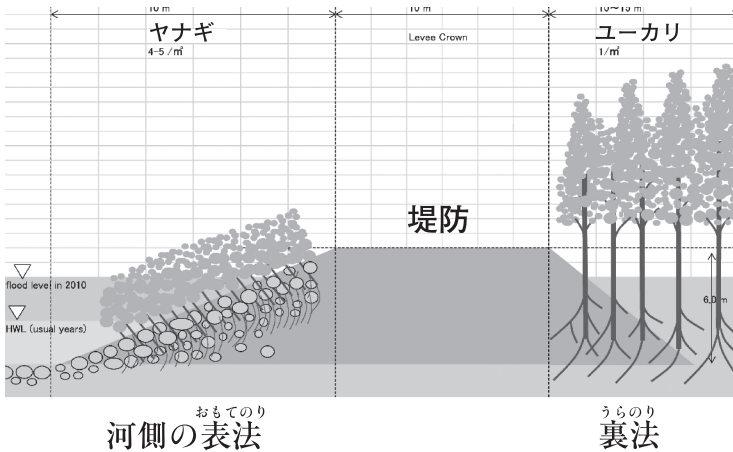
予算の大半が堰造成につきこまれました。石材の量が半端でないのです。今でこそ、ダンプカーやショベルカーを駆使して仕事ができますが、それでも大変です。二二〇年前、牛馬と人力だけで仕上げた先人は、どんなだったでしょう。それも渇水期の限られた期間で仕上げるのは、相当の覚悟と努力が要ったことでしょう。改めて、日本の先達の偉業を想い、その延長に現在の私たちの生活があることを知りました。

去る一二月中旬、河の水を流し、この巨大な堰の全貌が見えた時、皆がしばし作業の手を休め、うっとり眺め入りました。敷きつめた巨礫を流れる水が余りに美しいのです。説明抜きに、誰にでも分る美しさです。それは人と自然が和解した瞬間でもあったでしょう。また、命に直結する清らかな美です。「これで生きていける！」。多くの村民は、そう思ったと言います。以後、安堵感が地域に拡がり、難民となっていた





カシコート上流の洪水流入地の護岸工事（柳の挿し木中）。河の表法に緩傾斜をつけ巨礫間に柳の密植をする（2013年3月8日）



PMS方式の「植樹帯堤防」

人々が続々と帰郷し始めました。

### 「護岸」とは人の安全確保

その後も河との戦いは続きました。渇水期の間に、必要な護岸を進めねばなりません。この二カ月間は洪水浸入部の処置が焦点でした。詳細は割愛しますが、結局護岸線を総計四kmに伸ばし、堰き上がり地点の

水位上昇を抑える工事を行い、一年にわたる激闘に終止符を打ちました。

「護岸」と言っても、壁を高くすれば済むことではありません。人の安全を確保することです。万一浸水があっても、最低限の犠牲で済むよう、努力が払われました。まずは危険な場所を遊水地として耕作だけを許し、人が住まぬことです。強力な護岸と

いえども過信せぬことを徹底しました。

技術的には、洪水の抜け道を大きく取って堰き上がりを最低限に抑え、予想を超える水位に対しては力づくで守らず、越流を許すことです。洪水浸入部に長さ二〇〇mにわたり、堤防というよりは長い小山を築き、河の表法にヤナギ、裏法にユーカリの樹林帯を厚く造成します。何れも根が深く水になじみ、激流でもさらわれることがありません。万一洪水が来ても、流水が林をくぐる間に速度が落ち、破壊力を減らすことができます。

### 自然への畏敬忘れず

この手法は、古くから九州でも治水に広く用いられてきました。ガンベリ沙漠を襲う洪水対策でPMSが採用、見事な有効性を確認しています。

自然を制御できると思うのは錯覚であり、破局への道です。ただ与えられた恩恵に浴すべく、人の分限を見極めることです。最近の日本の世相を見るにつけ、ますます自然から遠ざかっているように思えてなりません。足りないのは、敵意を煽る寸土の領有や目先のカネ回りではありません。自然に対する謙虚さと祈り、先人たちが嘗々と汗で築いた国土への愛惜、そこに



息づく多様な生命との共生です。  
私たちには時間がある

同時に進行していたシギ地域の灌漑計画は、去る二月二日、長さ二六〇mの洪水路横断サイフォンが完成、シギ分水路一・八kmのうち、半ばを造成、何とか稲作に間に合うよう、努力が続けられています。



完成したシギサイフォン260mの埋立作業。9カ月の苦勞が、見えなくなるのは寂しいと作業員の弁 (2013年1月31日)

更に、開拓団の居住地の確保、開墾地の合法的な所有などが進められ、マルワリード用水路沿いの保全態勢も大きく前進しました。外国軍の謀略や犯罪集団の横行で治安が乱れる中、開拓地は最も安全な場所として、地域行政側も認めるようになっていきます。また、農業計画が質量ともに拡大する中、新たにチームが再編され、開拓・農産物の管理・作付け計画などを一括して実施する態勢が整いつつあります。

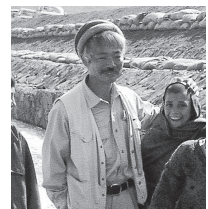
先はまだ長いですが、「緑の大地計画」の悲願実現に向けて確実な動きがあった一年間でした。アフガンのニュースと云えば、外国軍の撤退時期、軍規や治安の乱れ、汚職、危険情報ばかりが伝わります。しかし、焦ることはありません。私たちには時間があります。どこから何を見ようとするかで、ずいぶん印象が異なります。騒々しい情報世界を離れ、悠久の自然と人の営みに焦点を当て、今後も歩いて行きたいと思っています。

詳しくは次回の会報でお伝えしますが、各方面の協力を得てここまで来れたことを、感謝を以て報告いたします。

どうも有難うございました。

平成二五年三月一日

ジャララバードにて



中村 哲なかつむら てる：九州大学医学部卒。専門

地では内科・外科もこなす。国内の病院勤務を経て、一九八四年パキスタン・パクトゥンクワ州(旧北西辺境州)の州都ペシヤワールに赴任。以来二九年にわたりハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。一九八六年からはアフガン難民のための事業を開始、アフガン北東山岳部に三つの診療所を設立。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大旱魃対策のための水源確保(井戸掘り・カレージの復旧。作業地千六百余カ所以上)事業を実施。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を継続、〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長二五・五kmが開通した。近年の大洪水と濁水により壊滅した既存の取水口の改修・新設にも取り組んでいる。年間診療数約四万五千人(二〇一一年度)。



## 【カラー特集】 用水路建設工事の変遷 第2回 ガンベリ沙漠の開墾と試験農場



ガンベリ沙漠で植樹を開始（2008年11月30日）。写真左側に用水路、試験農場がある



同沙漠、4年後（2013年2月17日）。「何があってもただ水やり。誉められてもくさされてもただ水やり。嬉しくても疲れてもただ水やり。風が吹いても日照りでもただ水やり」（中村医師の報告書より）





開墾前のガンベリ沙漠（2010年3月）



ガンベリ沙漠・試験農場で初めての麦栽培（のちに砂嵐で砂に埋まる）。砂防用に畑を囲む植樹を急ぐ（2011年3月）





開墾中のガンベリ沙漠（2009年8月）



試験農場。生長した砂防林に囲まれ無事に栽培されたウマゴヤシ（2012年7月）





試験農場。植え付け1週間後のカリフラワー畑 (2012年9月26日)



2013年1月半ばまでに200株ほどのカリフラワーを収穫



## ◎現地スタッフからの便り

### 誇りと感謝の日々

PMSダラエメール診療所・予防接種担当

グラムモハマド

#### 二つの国の診療所で

私はアフガニスタン・ナンガラハル州シエイワ郡出身のザルワルの息子で、グラムモハマドと申します。

初めてJAMS（日本アフガン医療サービスマン現PMS）で勤務するようになったのは一九九二年で、当時はハッジ・ヤコブ氏が事務所責任者で、私はそこで看護の研修を受けました。

そののちはペシャワールにある基地病院やクナール州、ヌーリスタン州、ナンガラハル州などアフガンの各地山岳部に開設された診療所はもちろんの事、途中から徒歩か馬でしか到着できないパキスタン側のラシュツ診療所やコーヒスタン等、二つの国を跨り、各地のPMS診療所で働いてきま

した。

どの診療所も昼夜問わず患者が来るといつでも対応して働きました。診療所周辺地域では勃発するさまざまな問題、とりわけ二〇〇二年以降は治安問題に悩まされました。

とうとう二〇〇五年、クナールとヌーリスタンのPMSの診療所はアフガン政府に移管されて、私はダラエメール診療所に移り、医薬品保管と看護部門で働くようになりました。

#### 母子保健の向上

二〇〇八年に予防接種部門が開設されるからは、私は同僚のサルフラーズ氏と二人トレーニングを受け、それ以来ずっと今日まで予防接種部門で仕事をしています。

私はこのダラエメール診療所で、はじめの一般診療に加え、蔓延する結核の対策、ワクチンプログラム、最近では母子保健の向上（出産・分娩の分野）計画など、開設以来積極的な変化を長い間見てきました。

最後になりますが、日本の気高い方々が私たちがアフガンの貧しい人々を支援してく

ださっていることを大変うれしく思っています。また、PMSが貧困に苦しむアフガンを助け最善を尽くしている事に誇りを感じ、とても感謝しています。どうか今後私たちのためにこの人道的援助を続けてくださいますよう、お願い申し上げます。最後にもう一度、ありがとうございます。



ワクチン接種中のグラムモハマド

## 空爆下の食糧配給も

PMSドライバー  
モクタールカーン

私は一九八八年にペシャワールのJAMS（日本アフガン医療サービス＝現PMS）で運転手として任務に就いて以来、現在まで働いています。JAMSはハンセン病対策プロジェクトを開始していました。私たちはペシャワールの病院に来院することが困難な国境地バジヨール地区の難民キャンプに住む患者の診療もするために、パキスタンのデイルのテメルガルに診療所を設けました。

そのうち、JAMSはミッション病院から独立したPLS（ペシャワール・レプロシーサービス）と統合しPMSとなり、当時アフガニスタンに三カ所（ダラエヌール、ダラエピーチ、ダラエワマ）とパキスタンに二カ所（チトラール、コーヒスタンの診療所を持っていました。私はこれらの診療所に医薬品やスタッフを送り届けてきました。



モクタール運転手

二〇〇〇年にPMSがアフガニスタンで井戸掘削事業を始めたとき、私はドクターサブ中村と共にソルフロッド郡、ロダット郡、アチン郡、ダラエヌール郡での作業にも加わり各地へ行きました。また、タリバン時代に他の国際援助団体がアフガンを離れたときも、PMSはカーブルの国内避難民を支援するために診療所を五カ所開設しましたので、ドクターサブと行動を共にしました。二〇〇一年一〇月にカーブルで空爆が始まりましたが、そこでの食糧配給計画にも従事しました。そうして働いた

サファル・バハエル！（良い旅を）  
族長のタベ 甲斐大策

13

鋭い棘をまどう灌木が拡がるコハト南の赤色の荒地に、百米四方、七米余の防壁と二つの望楼を備え、大地と同じ色に聳えて街道を睥睨する砦がある。ハタクの支族ボラキの族長、八十歳歳のシエール・ババと忠直に従う二人の妻、六十歳の長男を頭に十五人の息子や娘達、近親者達とそれぞれ家族百数十名の居所である。男たちは軍人、警官、商店、運送、部族地区での間道交易等、ババが嫌悪する政治以外の殆どの職種に携わり、女達からは医師や教員が育ち、現在英国留学中の孫娘もいる。ババの老弟達は、所有農地の小麦や砂糖黍畑の経営を楽し気に務めている。

日中の気温が三十度を越えた三月末のこの金曜日も常の週と変わらず、一族の大半の者達が砦に戻った。特別の理由はない。全員で礼拝をし、中庭に敷いた三十メートル余の棉製ラグと白布の上で宴をもつ。

午後、井戸近くの紐編みベッドで胡座をかくババは、塩緑茶のポットとパシユトゥ語地方紙と英字全国紙、そして詩集を脇に眼目し、小言で呟く、

……吾、フシユハルは楯を馬上に……

……イサ（イエス）は愚者を賢者に変え得ずとも、盲に光齋らす奇蹟いくたび……

偉大なハタクの先祖、そして詩人、フシユハルの詩を暗唱する。

馬、驢馬、牛それぞれの囲いから散った青草に羊が集り、それを犬が吠え、鶏が跳ね走りはばたく。そんな騒ぎが藁と糞の臭いをふり撒く中、女部屋から長男の二人の妻の口論と、間をとりなすババの笑みを含んだ声がきこえる。長男が中庭を横切つてくる。

「ひとのヘンナを勝手に使った……って騒ぎですよ。」苦笑しながらの長男の説明にババは反応せず、日没近い空を跡絶えることなく北西、ペシャワール方面へ向う数千羽の鳥の群を見上げる。

ドゥデイ（ナン）と煮込みが香り、若者達が数物の用意に分かり、ババと従弟の導師が水場にしゃがみ、祈り前の浄めを始めた。

\*フシユハル・ハーン・ハタク。十七世紀、ハタク族を率いた族長。戦士として詩人としてパシユトゥン史に名高い。



のちにドクターサーブ専用車の運転をするようになりました\*。

一九八八年からずっと今日まで、私は運転手としてPMSと共に働き続けています。ご支援を下さる日本の多くの皆様に感謝申し上げます。

※二〇〇三年用水路建設がはじまり、工事現場での中村医師の動きに沿う事は、長年中村医師付きの運転手をして来た年配のカンジャンには厳しくなっております。しかし中村医師の運転手を選ぶのには、運転技術はもち

## ドクターサーブとの二五年

PMS前職員  
ラフマツトカーン

私はペシャワールのミッシェン病院ハンセン病棟で、ドクターサーブ中村が治療にあたっておられた一九八四年にドクターサーブに出会いました。当時私はこの病院の門衛をしておりました。ドクターがミッシェン病院を離れて独自にハンセン病患者の治療を始めようと決められたとき、ミッシ

ェン病院で働いていたメンバーのなかでドクターサーブと共に働こうと最初に決めたのは四人で、私はそのうちの一人でした。私たちはミッシェン病院でドクターサーブがとても献身的に、そして真面目に任務を遂行しておられるのを見てきたのです。ドクターサーブの私たちに接するときの態度、そしてハンセン病患者に対する献身を知っていたからこそ、私はミッシェン病院での年金を失ってでもドクターサーブが開設するハンセン病治療の新病院を手伝おうと決心したのです。ドクターサーブと共に過ごした二五年間で、ドクターサーブがスタッフに対しても患者に対しても思いやりがあり頼りがいもあることが分かり

ました。ドクターサーブと共にPMSジャンパンで長年働いたのち、私は二〇〇九年に退職することになりました。私の自宅は治安の悪い地域にあり、病院からも遠く離れていました。病院と自宅との行き帰りは疲れるだけでなく、危険なことでもあったのです。私は八歳のときから、危険な地域のある八キロ近くの道のりを毎日自転車で行き抜けて仕事に通ってました\*。私がそういう困難を抱えているこ



お茶の時間、庭師とくつろぐラフマツトママ（左、ママは「おじさん」の意）





増築中のダラエヌール診療所

とを理解して下さってからは、私のために特別に車両を手配して下さり、自宅と病院間を毎日送迎していただきました。さらに退職の数カ月前からは、週に三日の勤務だけでも良いとの措置を取って下さったので、よりリラックスして勤務することができました。

私は働ける間は働こうとPMSの勤務を続けてきましたが、高齢を考慮した結果、

二〇〇九年、栄えある退職となったのです。退職に際しては、かなりの額の退職金をいただきました。その退職金で私は古くなった家を修理し、牛を一頭買いました。こうして、自宅に居ながらにして少しは生計を立てることができるようになったのです。

いまでも私は、ドクターサーブ中村、シスター藤田、そして私たちと共にPMSで働いていた日本人スタッフ全員を思い出します。私がPMSに勤務していた期間ずっと、どの方もみな礼儀正しく私に接してくださいました。皆さん方が幸せにかつ成功裏に人生を送られますようお祈りしています。ありがとうございます。

※ラフマットママ（ママはおじさんという意味で、病院では皆からこのように呼ばれていました）は、彼が話しているようにミッション病院からの付き合いでした。PMSの職員になってからは門衛を経て事務の助手として院長室の世話係をしました。病院見学に来られた方は、お茶を出したラフマットと会われているかと思えます。彼は年を重ねるにつれて自転車通勤が難しくなり、公共のバス利用を試みていました。ところがある時顔と腕にひどい傷を負って出勤してきました。殆どの公共バスは乗車させる時、スピードを落としは



増築祝いの式典で祝辞を述べる中村医師（2013年2月9日）

しますが停車はしないのです。目が薄くなっていた彼はステップを踏み外しました。このような事が続き、彼は中村医師がアフガニスタンから病院に来られる時を待ち退職を申し出ました。しかし当時彼の長老的存在は病院に必要なため、中村医師は引き止めました。と、突然彼は泣き始めました。「私たちの国の病人のために長年働いている、尊敬しているドクターサーブに残れと言われて、どうして辞められようか」とオイオイと泣くので



## 現地活動に“感嘆の声”

NPO法人「未来塾・大人の学び」

小澤成一

1月17日から21日まで金沢で初の現地写真展示会を開いた。会場は石川県庁19階の展望ロビーで、親子連れやカップルのほか、昼休みには県庁職員の皆さんも立ち寄りなど、多くの市民の皆さんに知っていただくいい機会となった。

今回の写真展は、金沢のNPO法人「未来塾・大人の学び」とペシャワール会の共催で開催し、来場者は280名余に上った。近県からも「楽しみにしていたの」と語る女性や、「感動した。この写真をどうしてもほしい」と云われる方、『慈善の対象ではない、私たちと同じ生活をしている』の言葉にハッとさせられたと言う女性、「神をも超える行動だ」「真の人間の行動が生き生きと実現されている」と熱く語る人など、多くの感嘆の声が寄せられた。

一方ペシャワール会の活動を初めて知った人も「知らなかった。でもすごい」と驚きの声を隠さなかった。帰り際には一様に、写真展に対して「ありがとう、また開いて」と労いと感謝の言葉をいただいた。その言葉がスタッフにとって最高の贈り物であり、励みとなった。

す。彼の存在は車両の燃料代にも勝るものも十分に私達に与えていましたので、中村医師の配慮にとっても感謝したことを良く覚えています。身を投げ打ってPMSで働いた彼に十

分な退職金が準備できたのも、日本の皆様からのご支援があったからこそその事でございませぬ。物心共にお支え頂いている事に心から感謝申し上げます。(藤田)

\*ペシャワール会では全国各地で「現地報告写真展」とDVD「アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く 治水技術の七年」(制作・日本電波ニュース/朗読・菅原文太氏)の上映会を催して下さる団体もしくは個人を募集しています。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

### ▼寄附をしてくださる皆さまへ▼

\*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願いいたします。

### ▼郵送方法の変更について▼

\*一部地域の方々へは発送代行業者を通して別納郵送しております。差出人欄に代行業者名が記載されますのでご了承下さい。

### ▼郵便払込票の記入は分かりやすく▼

\*ご寄付をお送り下さった郵便払込用紙は、郵便局からコピーで届きますので、文字がにじんだり、かすれて判読しづらい場合がございます。楷書で分かりやすくご記入いただければ大変助かります。

### ▼未使用の切手、ハガキを！▼

\*会報の発送等の通信費に、年間数百万円がかっております。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。(使用済みハガキ・切手は受け付けておりませんのでご理解下さい)

\*一部地域の方々への会報は「料金別納郵便」でお送りしておりますが、その際も料金の代わりとして未使用切手で支払っております。

●事務局便り

今年の秋で、ペシャワール会発足以来三十年になります。振り返ると、ペシャワールのミッション病院ハンセン病棟への中村医師の赴任、JAMS（日本アフガン医療サービス）診療所発足、アフガニスタン山岳部診療所の建設、JAMSとPLS（ペシャワール・レプロロシサービス）を統合してPMS（ペシャワール会医療サービス）病院の建設（九八年）とハンセン病を柱にしての診療を続けてきました。それはソビエトの侵攻によるアフガン戦争（一九七九—一九八九）、社会主義政権から内戦をへてタリバン政権による実効支配、九一一事件の後二〇〇一年十月からは米軍侵攻によるアフガン戦争という、長い戦乱の下での活動でもありました。診療した患者総数は二五〇万人を超えます。

さらに二〇〇年からは大旱魃による農地の砂漠化が進み、その結果難民の発生、あるいは農村青年の武装集団や米軍の傭兵へのリクルートが進行し、治安がさらに悪化しました。本来人口の八割が農民で、食糧自給率が九〇パーセントを超える豊かな農業国であったアフガニスタンは、荒廃したテロの巷であるかのごとく国際メディアが伝えるところとなったのです。

旱魃により診療所の村人が難民となって村が消滅する中で、「飢えと渴きは薬では治せない」（中村哲医師）と、一六〇〇本の井戸を掘り数十箇所のカレーズの修復を行いました。飲料水の確保だけでは農村の回復は不可能です。そこで二〇〇三年三月十九日には、農業用水路確保のための用水路建設に着手したのです。奇しくも翌二十日はブッシュ政権がイラク攻撃を開始

した日でありました。それから十年です。米軍のイラク戦争による死者はイラク市民約十二万人、米軍兵士四千四百八十七人、戦費と戦後処理費は五百兆円と試算されています。大義名分の「大量破壊兵器の存在」も「フセイン政権とアルカイダの関係」も否定されませんでした。イラク攻撃を批判したオバマ政権は、米軍兵士の死傷者を減らすために、アフガニスタンでは無人兵器を多用しています。現代文明というものの行き着いた荒野を見るようです。

中村医師の報告にあるように、この春マルワリードIIカシコート連続堰が完成すれば、PMSの事業で一万六千五百ヘクタールの農地の維持が可能となり、推定六五万人（アフガニスタンの人口二千万人の二千五百万人）の暮らしが維持されます。費やされた費用は十数億円です。十年目の春に、文明と自然について、深く考えてみるべきかと思えます。

◎村から

あの日、ブクスタアの棚の中から、中村哲著「医者、井戸を掘る」を手にとった。中村哲「聞いて、ペシャワール会の事務局に電話をかけたときに「お待ちしています」という優しい声を聞かなくなったら、私が今ここでボランティアをしている事はなかったでしょう。キッカケって不思議な縁ですね。事務局で礼状を書いたり、切手の整理をしたり、写真展の会場で来場の方々に説明をしたりする事で、私も中村先生の理念のお手伝いをしてという気持ちになり、嬉しくなります。これからも、自分にできる範囲で事務局通いが出来ればサイコーです。（S）

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む  
中村哲 用水路建設事業の7年をつづった感動の記録 【3刷】1890円

逆境で診る 逆境から見る  
【3刷】1890円

医者 井戸を掘る 【10刷】1890円

医は国境を越えて 【6刷】2100円

ダラエヌールへの道 【重版・5刷】2100円

ペシャワールにて 【8刷】1890円

アフガン 高橋修・編著  
農業支援奮闘記

農業計画6年余の失敗と成功を記した貴重な記録【新刊】2500円

聖愚者 甲斐大策  
の物語

1890円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24  
電話092(714)4838

人は愛するに足り、  
真心は信ずるに足る

アフガンとの約束  
中村哲／澤地久枝（聞き手）  
1995円

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5  
電話03(5210)4000

価格はすべて税込価格(税5%)です

会 則

- ①本会の名称をペシャワール会とする。
- ②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
- ④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨本会の事務局をFAFAHOUSE（千八—〇〇〇四一 福岡市中央区大名一丁目一〇—二五 上村第二ビル 六〇三号 Ⅱ〇九二—七三二—二三七二）内におく。